

## 第2学年 国語科 学習指導案

日 時	平成25年10月10日(木) 5校時
学 級	2年5組(男子14名 女子19名 計33名)
場 所	2年5組 教室
授業者	佐藤 志保

### 1 単元名

いにしへの心を訪ねる ～ 徒然草 ～

### 2 単元を貫く言語活動について

本単元には、「教科書以外の徒然草の章段について、自分たちで解釈して交流する」という言語活動を単元を貫いて位置づけた。ここでいう「交流」とは、個人で教科書以外の章段を読解し、その読みをグループで交流し、解釈を深める学習と、その詳細な読解を基に、兼好法師のものの見方について自分の考えを書く学習からなる。これにより「例示や描写の効果、登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てること(C 読むこと イ)」「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと(C 読むこと エ)」を通し、伝統的な言語文化に関する事項 ア(ア) (イ)を指導するものである。

### 3 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領国語科第2学年「C 読むこと」の指導事項「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」と「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」を通して、第2学年〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア「(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと」および「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を指導するものである。

音読を繰り返して古文のリズムに慣れると同時に、歴史的仮名遣いや助詞・主語の省略、係り結びによる強調といった古文読解における基礎・基本の定着も確認した上で、内容理解に取り組ませたい。

「徒然草」は、鎌倉時代に書かれた二百四十四段からなる随筆である。兼好法師の人生観や世界観、当時の世俗譚などが、引き締まった筆致でわかりやすく書かれている。社会のあり方や生活様式など、現代とは大きく異なる時代に生きた兼好法師の考えは、示唆に富み、現代に通じるものも数多い。古典にまだ慣れない中学2年生にとっても、自己の身近な例に引きつけて考えることができ、古典の面白さに気付くための教材として好適である。

#### (2) 生徒観

##### ア 中学校での学習状況

1年次に「いにしへの心にふれる」という単元において、「いろは歌」「七夕に思う」「竹取物語」「矛盾」を学習している。和歌や俳諧、随筆、物語、漢文などの様々な古典作品に触れる中で、歴史的仮名遣いや係り結び、現代にない古語、また現代とは意味の違う古語についての学習を行った。音読や朗読・暗唱などの言語活動を取り入れ、「C 読むこと ア ウ」の指導を通し、第1学年〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア「(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」および「(イ) 古典にはさまざまな種類の作品があることを知ること」について指導した。2学年になって、「枕草子」の学習を行い、第2学年「C 読むこと イ エ」の指導を通し、〔伝統的な言語文化に関する事項〕(1)ア(ア)(イ)について指導した。しかしながら、内容を理解し、そこに描かれた登場人物の心情や作者のものの考え方について自分の考えをもつことについてはまだまだ困難を感じている生徒が多い。以下は、昨年行われたCRT「古典に関する小領域全体の正答率」である。全国平均は若干上回っているものの、古文の内容理解度は低い。

【2012年 CRT 小領域 IV8 「古典的な文章に親しむこと」正答率】

小領域 IV8 正答率		矢巾北中2学年	全国
全体		49.5%	45.5%
小問内容	古文・音読の理解	46%	37%
	古文の意味・心得たり	53%	52%
	古文・主語の読み取り	58%	55%
	古文・内容理解	41%	36%

つまり、生徒が古典の学習に対して抱いているイメージは、未だ歴史的仮名遣いの読み方や重要古語の暗記、現代語訳に即しての表面的な内容理解にとどまっており、文章に書かれた内容について叙述に即してじっくり読み、そこから生徒自身が現代にも通じる教訓や、現代とは異なるものの見方や感じ方を見出し、魅力を感じ取るまでには至っていない。「C 読むこと」(1)「イ・エ」の指導が不十分な状況である。

2学期に入り、小説「盆土産」随筆「字のない葉書」「平家物語 扇の的」を通して「C 読むこと」(1)「ア・イ・エ」の指導を行った。登場人物の言動や情景描写など、叙述に即して読むことはもちろん、「書かれていない部分」を想像したり、人物どうしの位置関係を考えて読んだりすることで、家族のきずな・登場人物や筆者の思いを読み取った。古典「徒然草」の学習もまた、現代語訳を通じて同様の読み方を試み、時代を超えて、兼好法師のもの見方・考え方へと迫ることができることを体験させたい。それにより、古典学習への意欲を高めるとともに、古典を身近に感じ、他の作品への読書活動へとつなげるきっかけとしたい。

#### イ 授業の様子

ほぼ毎回、静かに落ち着いて学習に取り組むことができている。ノートや学習シートへの記入もしっかりしており、学習意欲も概ね高いものがある。しかし、一斉授業という形態では、たとえ考えを持っていても、皆の前で積極的に発言する生徒は限られており、指名発言によって課題解決をすることが多かった。そのため4月からたびたびグループ学習を取り入れて授業を行うようにしたところ、全体の中ではなかなか発言できなかった生徒も、和気あいあいとした雰囲気の中で、自主的に発言し、学習課題の解決に取り組めるようになってきた。今後はグループでの話し合いの仕方や質をさらに高め、グループ学習の成果を最終的に生徒個人が自分の考えに生かしてまとめさせる指導に力を入れたい。

#### (3) 単元の指導構想

この単元で目指す、古典を読み「自分の知識や経験と関連付けて考える」力を高めるために、文法や古語についての説明は必要最小限とどめ、生徒が問題意識をもって主体的に作品を読む姿勢を尊重して授業を進めていく。それには、教科書に載っていない他の章段もいくつか紹介し、考える材料を多く提供することが有効と考えている。生徒は提示された資料から一つ章段を選び、内容や兼好法師のもの見方について自分の考えをまとめ、他人に紹介するシートを作成する。さらに、それを他の生徒と交流し、他者の価値観に触れたり、自分の考えを伝えたりすることで、自分や集団の考えを発展させていく。この単元の学習を通し、古文を正しく読解することは、あくまで古典に描かれたものの価値観に触れ、自分の考えを深めるための土台であることを生徒に実感させたい。そのうえで、生徒が古典をひとつの人生論・人間論として自分に引きつけて考え、その有用性に気付くことができればと考える。

#### 〈「思考力・判断力・表現力等」を育てるための言語活動の充実のポイント〉

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章を読み、自分の知識や体験と関連付けて自分なりの考えを学習シートにまとめる。(④)</li> <li>2. 互いの考えを伝え合い、文章の解釈や読みについて自分や集団の考えを深める。(⑥)</li> </ol> |
|---|

#### 4 単元の指導目標

- (1) 古典に示された内容やものの見方について関心を持ち、自分の生活に行かせるよう交流して考えを深めようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 文章に表れている作者のものの見方や考え方について、理解を深めるとともに、自分の知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめることができる。 【読むこと】
- (3) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、現代にも通じる点や異なる点に気づき、自分の知識や体験に引き付けて考えることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①文章を丁寧に読んで作品の読み(解釈)や兼好法師のものの見方や考え方について考えをもち、交流して深めようとしている。	①文章に表れた兼好法師のものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けて考えをもっている。 ②文章中の描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解している。	①歴史的仮名遣いや古文特有の言葉遣い、省略されている語句など、表現の特徴に注意してリズムを味わい音読している。

#### 6 単元の指導計画並びに評価 (全5時間)

時	学習内容	観点			評価	
		関	読	言	評価規準	評価方法
1	単元の学習活動と目標を確認し、見通しをもつ。 ○「徒然草」の教科書以外の章段について、自分たちで解釈(読み)を交流する。「徒然草」についての基礎事項を確認し、序段・「仁和寺にある法師」の音読をする。	○		◎	・学習の見通しをつかみ、積極的に学習に取り組もうとしている。(関) ・文語の特徴に注意しながら、リズムを味わい音読している。(言)	観察(発言の内容・音読の様子)
2	「仁和寺にある法師」を読み、最後の一行に関する兼好法師の考えを読み取り、自分たちにも当てはまる教訓を自身の体験例を挙げて考える。		◎	○	・文章に表れた兼好法師のものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて自分の考えをもっている。(読①)	観察(発言の内容・ノート記述)
3	・教科書以外の章段を三つ読み、現代語訳を読んで登場人物の言動や兼好法師の考えについて考察する。		◎		・文章中の描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解している。(読②)	観察(発言の内容・ワークシート記述)
4 本 時	・グループごとに担当の章段について解釈を交流し、読みを深める。 ・兼好法師のものの見方が現代にもあてはまる例について、グループ内で自分の知識や経験などを出し合う。 ・自分の最終的な読み(解釈)を、現代にも当てはまる自分の体験や知識と関連付けて考える。	○	◎		・描写や登場人物の言動の意味などに注意して読み、交流して内容理解を深めている。(読②) ・文章に表れた兼好法師のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。(読①) ・作品の読み(解釈)や兼好法師のものの見方や考え方について考えをもち、交流して深めようとしている。(関)	観察(発言の内容・ワークシート記述)
5	・それぞれの読みを交流する。それぞれの章段の内容理解を深め、自分の知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	◎	○		・代表者による発表や感想文の読み合いを通し、自分の考えを深めようとしている。 ・各章段に表れた兼好法師の考え方について、自分の知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。	観察(交流の様子・振り返りシートの記述)

7 本時の指導

(1) 本時の目標

ア 自分が担当した段について、描写や登場人物の言動の意味に注意して読み、兼好法師のものの見方や考え方について考える。

イ 他の生徒の発表や意見を聞き、内容理解に役立てるとともに、自分の読み（解釈）や現代にも当てはまる経験についての考えを広げることができる。

(2) 指導過程

	学習活動	指導上の留意点 「 」は予想される生徒の反応	◇教具 ◆評価
導入 5分	1. 学習内容の確認  2. 学習課題の把握	・学習のねらいを具体的に示し学習の見通しを持たせる。交流の進め方を説明し、スムーズに話し合いに入れるようにする。	◆積極的な姿勢で学習に参加している。（観察）
	学習課題:担当した段についてグループで話し合い、兼好法師のものの見方について考えよう。		
展開	3. 学習課題の追求 (1)グループ内で担当の章段の解釈について、自分の考えを述べ合う。	・前時に自分で考えた解釈について3～4人のグループで発表する。	◇資料「徒然草」 ◇前時のワークシート
	言語活動⑥：互いの考えを伝え合い、解釈について自らの考えや集団の考えを発展させる。		
40分	(2)互いの紹介を聞き、解釈を整理する。  4. 学習課題の深化 (1)同じ章段を担当した他のグループと意見交流する。  (2)自分たちのグループで、深まった解釈をもとに、自分たちにも当てはまる体験や知識がないか意見を出し合う。  (3)自分の最終的な読み（解釈）をまとめ、関連した自分の体験や知識などの例について書く。	・解釈の根拠となった叙述を挙げているか、机間巡視して観察し、必要な場合にはアドバイスをする。 ・章段の解釈について、他の生徒同じところや違うところを整理するように指示する。 ・注目すべき叙述が、生徒同士の話し合いで取り上げられていないようであれば、指摘して再度読み直すよう視点を与える。  ・自分たちのグループで話し合ったときの解釈と共通点や相違点があるかを照合するよう指示する。  ・自分の解釈（読み）の根拠を挙げさせる。自分の考えの変化や深まりに影響を与えたのは、誰のどのような発言かを具体的に記入させる。	◆互いに意見を出しあい、文章の解釈や、兼好法師の見方や考え方についてより深めようとしている。  ◆文章中の描写や登場人物の言動の意味などを考えて読んでいる。（観察・ワークシート記述の分析）  ◆兼好法師のものの見方や考え方について、自分の知識や体験の例を挙げて、自分の考えをもっている。（ワークシートシート記入）
終結 5分	6. 学習の振り返り 学習を振り返る。	・この学習で身についたことや、自分の考えの広がりや深まりについて記入させる。	◇振り返りシート

## 8. 板書計画

いにしへの心を訪ねる 「徒然草」

担当した段についてグループで話し合い、  
兼好法師のものの見方について考えよう。

〈流れ〉

- 一. 四人グループ内で自分の読み方を発表。(10分)  
(前時のワークシートを基に)
- 二. 同じ章段を担当している他のグループと交流。  
共通点・相違点を確認する。(15分)  
さらに読みを深めるための視点を話し合う。
- 三. 話し合いの内容をもとに、  
各グループで話し合う(15分)  
現代にも通じる点↓自分たちの体験も交えて
- 四. 学習の振り返り (5分)